

令和5年度法務省委託事業

～ハンセン病問題を次世代に伝える～
『親と子のシンポジウム』

報 告 書

令和5年度法務省委託「～ハンセン病問題を次世代に伝える～『親と子のシンポジウム』」実施完了報告

1 実施概要

- (1) テーマ： ～ハンセン病問題を次世代に伝える～「親と子のシンポジウム」
- (2) 日 時： 令和5年11月11日（土）午後1時30分～午後4時
- (3) 形 式： オンライン（リアルタイム）配信
コモレ四谷タワーコンファレンス
（東京都新宿区四谷1-6-1 コモレ四谷 四谷タワー3階）をメイン会場として配信
- (4) 対象者： 一般市民（事前申込不要、参加無料）
- (5) 主 催： 法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、東京法務局、東京都人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- (6) 後 援： 中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、東京都、東京都教育委員会、東村山市、東村山市教育委員会、特別区長会、東京都市長会、東京都町村会、NHK、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、共同通信社、時事通信社、日本財団（順不同）
- (7) 内 容：
 - 主催者挨拶（10分）
 - 動画上映（10分）
人権啓発動画「ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～」
※一部抜粋（森 和男さんのエピソード）
 - 基調講演（15分）
山岡 吉夫（国立療養所多磨全生園入所者自治会会長）
※多磨全生園よりリモートで登壇
 - パネルディスカッション（45分）
・テーマ「ハンセン病の元患者やその家族が安心して暮らしていくには」
[コーディネーター]
町 亜聖（フリーアナウンサー/元ヤングケアラー）
[コメンテーター]
内田 博文（全国人権擁護委員連合会会長、国立ハンセン病資料館館長）
金 貴粉（国立ハンセン病資料館学芸員）
山岡 吉夫（国立療養所多磨全生園入所者自治会会長）
[パネリスト]
松葉 悠乃（第41回全国中学生人権作文コンテスト・内閣総理大臣賞 受賞者）
木村 直（東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻修士課程在籍、写真家・アーティスト）
太田 明夫（ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会会長）
 - トークショー（40分）
・「ハンセン病について学ぶ」
[コーディネーター]
町 亜聖
[コメンテーター]
内田 博文
山岡 吉夫
金 貴粉

〔登壇者〕

横溝 菜帆 (俳優)

松葉 悠乃

木村 直

●ビデオメッセージ (45分)

豎山 勲 (ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長)

屋 猛司 (全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所邑久光明園入所者自治会会長)

ハンセン病家族訴訟原告 代表 原告番号21番

●閉会

2 目的

ハンセン病問題に関する正しい知識と理解は、いまだ十分とはいえず、かつて採られた国の強制的な隔離政策により作出・助長されたハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に根深く残っている。

そこで、当事者やハンセン病問題に関わってこられた方々の声を聴き、ハンセン病問題を決して風化させることなく、その正しい知識と理解を次の時代を担う人々に伝えていくとともに、偏見・差別は身近な場面でも起き得ることを前提に、同じ過ちを繰り返すことなく、偏見・差別のない社会を実現するためにはどうしたらよいか、親子で考えていくためのシンポジウムを開催する。

3 参加者数等

732人 (YouTube「ユニーク視聴者数」)

※参考：同「視聴回数」1,273回

同「最大同時視聴者数」138人

同「インプレッション数」14,000回

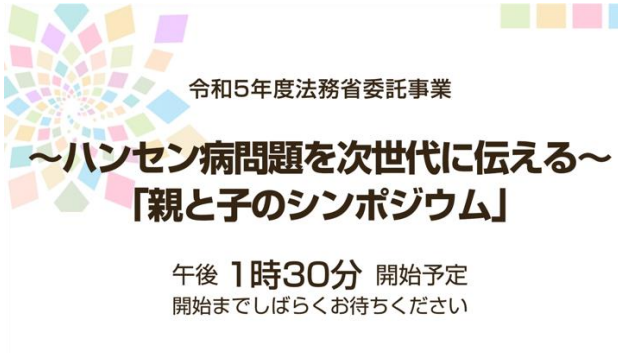
※2週間後の結果

1,391人 (YouTube「ユニーク視聴者数」)

参考：同「視聴回数」2,183回

同「インプレッション数」48,000回

4 配信の様子



ライブ配信前：案内



主催者挨拶1 法務省



主催者挨拶2 厚生労働省



主催者挨拶3 文部科学省



基調講演・コメンテーター：山岡 吉夫（国立療養所多磨全生園入所者自治会会長）



コーディネーター：町 亞聖（フリーアナウンサー/元ヤングケアラー）



コメンテーター：内田 博文（全国人権擁護委員連合会会長、国立ハンセン病資料館館長）



コメンテーター：金 貴粉（国立ハンセン病資料館学芸員）



パネリスト・登壇者：松葉 悠乃（第41回全国中学生人権作文コンテスト・内閣総理大臣賞受賞者）



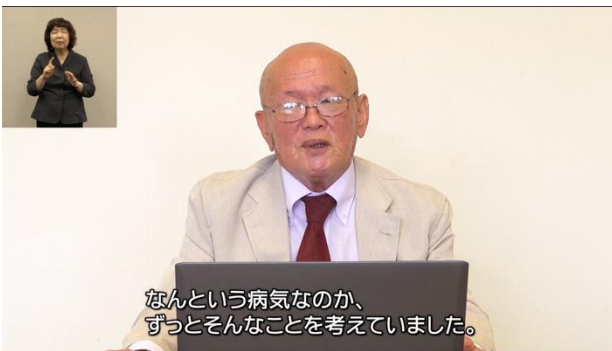
パネリスト・登壇者：木村 直（東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻修士課程在籍、写真家・アーティスト）



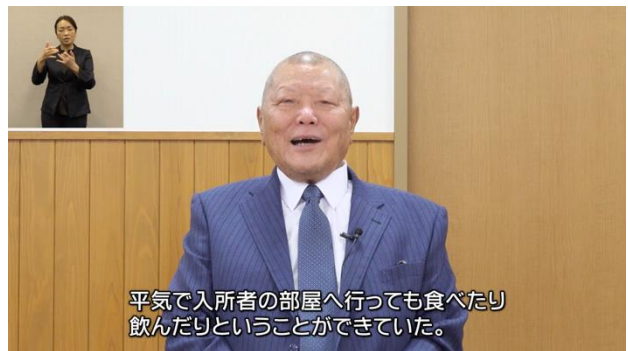
パネリスト：太田 明夫（ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会会長）



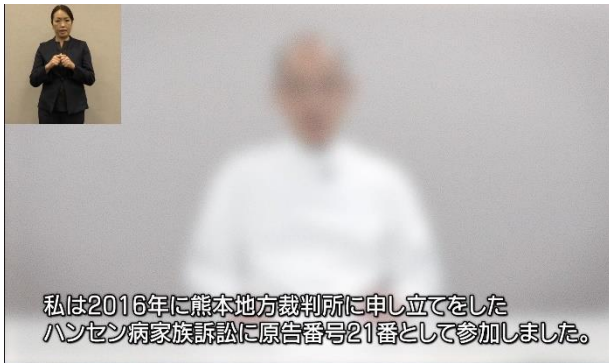
登壇者：横溝 菜帆（俳優）



ビデオメッセージ：堅山 勲（ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長）



ビデオメッセージ：屋 猛司（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所邑久光明園入所者自治会会長）



ビデオメッセージ：ハンセン病家族訴訟原告
代表 原告番号21番

別添

- ・当日配布資料（ダウンロード用プログラム）
- ・アンケート集計結果
- ・採録記事（紙面イメージ）

5 オンライン（アーカイブ配信）

本シンポジウム終了後、YouTube 人権チャンネルにおいて、オンライン（アーカイブ）配信を実施。（令和5年11月11日（土）の公開から1年間限定）

2023.11.11 令和5年度「～ハンセン病問題を次世代に伝える～『親と子のシンポジウム』」

<https://youtu.be/P276Vt03VrI?si=20wymo183sXs13he>

令和5年度法務省委託

～ハンセン病問題を次世代に伝える～ 「親と子のシンポジウム」



■日時

令和5年11月11日（土） 午後1時30分～午後4時15分（予定）

※オンライン（YouTube LIVE）配信

■主催

法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、東京法務局、
東京都人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター

■後援

中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会、
ハンセン病家族訴訟原告団、東京都、東京都教育委員会、東村山市、東村山市教育委員会、特別区長会、
東京都市長会、東京都町村会、NHK、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、産経新聞
社、共同通信社、時事通信社、日本財団（順不同）

目 次

● タイムスケジュール	2
● 人権啓発動画	
○ 「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」	4
● 登壇者の御紹介	
[基調講演・パネルディスカッション・トークショー]	
○ 山岡 吉夫さん	5
[コーディネーター/総合司会]	
○ 町 亜聖さん	6
[パネルディスカッション・トークショー]	
○ 内田 博文さん	7
○ 金 貴粉さん	8
○ 松葉 悠乃さん	9
○ 木村 直さん	10
[パネルディスカッション]	
○ 太田 明夫さん	11
[トークショー]	
○ 横溝 菜帆さん	12
[ビデオメッセージ]	
○ 豎山 勲さん	13
○ 屋 猛司さん	15
○ ハンセン病家族訴訟原告 代表 原告番号 21 番	16
● 人権ライブラリーの御案内	17

本シンポジウムの目的

日頃、親子で何かについて一緒に考えることはありますか？

ハンセン病という病気について、当事者の方々の過去の体験を聴いて、感じたことを親子で話し合ってみませんか？

誰もが暮らしやすい社会を実現するためにはどうすればよいか、親子で一緒に考えるシンポジウムを開催します。

タイムスケジュール

- 13:30～13:40 **開会・主催者挨拶**
- 13:40～13:50 **動画上映**
人権啓発動画
「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」から
※一部抜粋（森 和男さんのエピソード）
- 13:50～14:05 **基調講演**
山岡 吉夫さん（国立療養所多磨全生園入所者自治会会長）
- 14:05～14:50 **パネルディスカッション**
テーマ「ハンセン病の元患者やその家族が安心して暮らしていくには」
- コーディネーター
町 亜聖さん（フリーアナウンサー/元ヤングケアラー）
 - コメンテーター
内田 博文さん（全国人権擁護委員連合会会長、国立ハンセン病資料館館長）
金 貴粉さん（国立ハンセン病資料館学芸員）
山岡 吉夫さん（国立療養所多磨全生園入所者自治会会長）
 - パネリスト
松葉 悠乃さん（第41回全国中学生人権作文コンテスト・内閣総理大臣賞受賞者）
木村 直さん（東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻修士課程在籍、写真家・アーティスト）
太田 明夫さん（ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会 会長）

15:00～15:40

トークショー
「ハンセン病について学ぶ」

○ コーディネーター

町 亞聖さん

○ コメンテーター

内田 博文さん

山岡 吉夫さん

金 貴粉さん

○ 登壇者

横溝 菜帆さん（俳優）

松葉 悠乃さん

木村 直さん

15:40～16:15

ビデオメッセージ

豎山 勲さん（ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局
局長）

屋 猛司さん（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所邑
久光明園入所者自治会会長）

ハンセン病家族訴訟原告代表 原告番号 2 1 番

16:15

閉会

● 本シンポジウム終了後、アンケートへの御協力をお願いいたします

<https://forms.gle/5YAxjATYKsVP4kD88>（Web アンケートフォーム）



[人権啓発動画の御案内]

「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」

ハンセン病問題に関する理解を深め、偏見や差別のない社会の実現について考えるための人権啓発動画です。

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。

* 本シンポジウムでは、“ハンセン病元患者の家族 森和男さんのエピソード”を上映*



令和2年度
法務省委託 人権啓発動画

ハンセン病問題を知る
～元患者と家族の思い～

企画 法務省人権擁護局
公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作 毎日映画社

DVD (34分40秒)
日本語字幕つき
副音声入り
[活用の手引き]つき



YouTube「MOJ（法務省）チャンネル」で全編視聴可能
https://youtu.be/gPH5b_CDwto

[基調講演/パネルディスカッション/トークショー]

やまおか よしお
山岡 吉夫

国立療養所多磨全生園入所者自治会会長



【略歴】

昭和35年	9月28日	長島愛生園に入園
昭和36年	3月26日	岡山県邑久郡邑久町立裳掛小学校（愛生学園）卒業
昭和39年	3月31日	岡山県邑久郡邑久町立裳掛中学校（愛生学園）卒業
昭和43年	3月4日	岡山県邑久高等学校普通科（新良田教室）卒業
	10月15日	長島愛生園を退園、社会復帰。家業の魚屋で働く
昭和48年	6月6日	多磨全生園に入園
昭和49年	4月	東京都立第四商業高等学校入学
昭和49年		都内の企業に就職
昭和50年	3月25日	多磨全生園を退園、社会復帰
昭和53年	3月5日	東京都立第四商業高等学校卒業
平成24年	4月12日	多磨全生園に再入園
平成27年	2月1日	多磨全生園入所者自治会執行委員(医療担当)に就任
令和2年	3月1日	多磨全生園入所者自治会会長に就任

国立多磨全生園将来構想委員会委員

国立多磨全生園人権擁護委員会委員

歴史的建造物保存検討会・多磨全生園WG委員

全国ハンセン病療養所入所者協議会多磨支部長

国立感染症研究所ハンセン病研究センター安全連絡協議会委員

社会福祉法人土の根会 花さき保育園評議員

社会福祉法人ふれあい福祉協会理事

NPO法人 東村山活き生きまちづくり理事

東村山市身体障害者患者連絡協議会副会長

[コーディネーター/総合司会]

総合司会

まち あせい
町 亞聖



フリーアナウンサー/元ヤングケアラー

<プロフィール>

小学生の頃からアナウンサーに憧れ1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、活躍の場を報道局に移し、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。“生涯現役アナウンサー”でいるために2011年にフリーに転身。脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」を小学館文庫から出版。医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動が続ける。直近では念願だった東京2020パラリンピックを取材。元ヤングケアラー。

(町 亞聖公式ブログ→<http://ameblo.jp/machi-asei/>)

<出演番組>

☆ラジオ日本 あさ6時30分～8時50分生放送

「町 亞聖のスマートNEWS」木曜パーソナリティー

<http://www.jorf.co.jp/?program=smartnews>

☆ニッポン放送 毎週日曜あさ6時25分～6時54分

「ウィークエンドケアタイム「ひだまりハウス～うつ病・認知症について語ろう～」

<https://www.1242.com/hidamari/>

☆ラジオNIKKEI 毎月第4金曜夕方17時20分から17時40分

「賢い患者になろう！」

<http://www.radionikkei.jp/kashikoi/>

<書籍>

18歳の時に母の介護に直面しヤングケアラーの当事者になった日々を綴った書籍「十年介護」(小学館文庫)

☞<https://www.amazon.co.jp/十年介護-町亞聖-ebook/dp/B00DZAR096>

[パネルディスカッション/ トークショー]

コメンテーター

うちだ ひろふみ
内田 博文



全国人権擁護委員連合会会長、国立ハンセン病資料館館長

1946年大阪府生まれ。京都大学大学院法学研究科修士課程修了。九州大学名誉教授。専門は刑事法学（人権）、近代刑法史研究。ハンセン病市民学会共同代表。厚生労働省第三者機関「ハンセン病問題に関する検証会議」副座長（2002-2005年）、同「ハンセン病問題検証会議の提言に基づく再発防止検討会」座長代理（2006-2020年）、熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会委員長（2015年から現在）、全国精神医療審査会連絡協議会理事（2017年から現在）などを務める。ハンセン病患者の権利擁護を中心とする医療基本法や差別禁止法の法制化の問題のほか、子どもの権利問題にも取り組んでいる。

【略歴】

1971年3月 京都大学大学院法学研究科修士課程を卒業。
愛媛大学法文学部講師、神戸学院大学法学部講師、助教授、教授を歴任
1988年4月～2010年3月 九州大学法学部教授
2010年4月～2017年3月 神戸学院大学教授
2021年7月～国立ハンセン病資料館館長

【著書】

『自白調書の信用性』（2014年、法律文化社）
『更生保護の展開と課題』（2015年、法律文化社）
『刑法と戦争』（2015年、みすず書房）
『治安維持法の教訓』（2016年、みすず書房）
『治安維持法と共謀罪』（2017年、岩波新書）
『法に触れた少年の未来のために』（2018年、みすず書房）
『医事法と患者・医療従事者の権利』（2021年、みすず書房）
『感染症と人権』（2021年、解放出版社）など多数。

[パネルディスカッション/ トークショー]

コメンテーター

きん きぶん
金 貴粉



国立ハンセン病資料館学芸員、国立感染症研究所ハンセン病研究センター客員研究員。

ハンセン病患者・回復者による文化・芸術活動、在日コリアンハンセン病回復者の歴史を主な研究テーマとして活動している。館外への出張講座など、小、中学生をはじめとする子ども達へハンセン病問題について伝えるなど、社会啓発活動にも力を入れて活動している。

主要編著書：『在日朝鮮人とハンセン病』（クレイン、2019年）、「ハンセン病療養所における盲人組織の設立」『国立ハンセン病資料館研究紀要』第3号、「戦後ハンセン病療養所における文化活動とその意味—絵画活動を中心として—」『アジア太平洋レビュー』12号（大阪経済法科大学）等がある。

[パネルディスカッション/ トークショー]

パネリスト

まつば はるの
松葉 悠乃

第41回全国中学生人権作文コンテスト・内閣総理大臣賞受賞者

[パネルディスカッション/ トークショー]

パネリスト

きむら ちよく
木村 直



東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻修士課程在籍、

写真家・アーティスト

1998 年生まれ。東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻修士課程に在籍。「生活のハンセン病療養所の記録と継承」と「見ない暴力/見る暴力」を主軸に、写真・映像・インスタレーションを用いて制作活動を行う。母が大学生の頃、国立療養所沖縄愛楽園（ハンセン病療養所）に行ったことがきっかけで、2 歳ごろから両親に連れられて、国立療養所沖縄愛楽園に訪れる。2021 年「T3 PHOTO FESTIVAL STUDENT PROJECT」グランプリ受賞、2022 年「第 9 回 500m 美術館賞入選展」グランプリ受賞。

【略歴】

2020 年 東京造形大学 造形学部デザイン学科写真専攻 卒業

2023 年 東京藝術大学 美術研究科 先端芸術表現専攻 修士課程 在籍

【個展/Solo Exhibitions】

2022 年 T3 PHOTO FESTIVAL STUDENT PROJECT グランプリ受賞記念展 2021

みちしるべ 2016-2020-国立ハンセン病療養所の記録と継承- (72gallery/東京)

2020 年 「2019 年度東京造形大学卒業研究・

卒業展 記録と継承 沖縄愛楽園と宮古南静園」(沖縄愛楽園交流会館/沖縄)

2019 年 「教育をブッ飛ばせ」(東京造形大学 mime/東京)

[パネルディスカッション]

パネリスト

おおた あきお
太田 明夫



ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会 会長

【略歴】（ハンセン病問題につながるまで）

1970年 学生時代に水俣病と「負の出会い」

この頃通い始めた関西の山小屋で卒業後も働くが、当時の自然保護運動とは距離を置いていた。

1976年 故郷に帰り、「子どもの近くにいるふつうのおじさん」として小・中学校事務職員となる。

この頃、水俣病問題と再び出会い、改めて社会問題に目を向けることになる。同時に、学校事務職員として子どもの生活実態に触れ、「同和」教育に出会う。

2001年 「らい予防法違憲国家賠償訴訟原告勝訴判決」以後、すでに1997年に示されていた「人権教育のための国連10年」に関する国内行動計画に沿って、「さまざまな人権課題の一つ」としてのハンセン病問題に向き合う。中・四国の3療養所を中心として、教職員、地域の人権学習グループのメンバーを案内して島根県出身入所者との「交流」を続ける。

2016年 「ハンセン病家族訴訟」について「応援（支援）」という意識で関心を持つ

2018年 「ハンセン病家族訴訟原告団」顧問・豎山勲と出会い、「支援」という意識の誤り、「加害当事者としての市民」の立場を問い直す。以後、「ハンセン病家族訴訟原告団」と行動を共にすることとなる。

2019年 「ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会」発足。

「ハンセン病家族訴訟」への同行のほか、全国知事アンケート等、各地で請願等の活動、各種講演会、学習会の企画・運営等を行う。

【活動】

主として、島根県内での学習・研修会、市町村の開催する人権を考える市民の集い等においてハンセン病問題について伝える活動、島根県出身退所者の里帰り講演会の企画等を行う。国設置の委員会の委員を複数務めている。

社会福祉法人ふれあい福祉協会ふれあい相談員。

[トークショー]

登壇者

よこみぞ なほ
横溝 菜帆



俳優

3歳から子役として活動を開始し、2012年のNHK大河ドラマ『平清盛』など数々のドラマなどに出演。2018年7月期放送のTBS系『義母と娘のブルース』で娘・みゆきの幼少期を演じて注目を集める。

テアトルエンターテインメント所属。

ドラマ

「君と世界が終わる日に」、「義母と娘のブルース」ほか多数

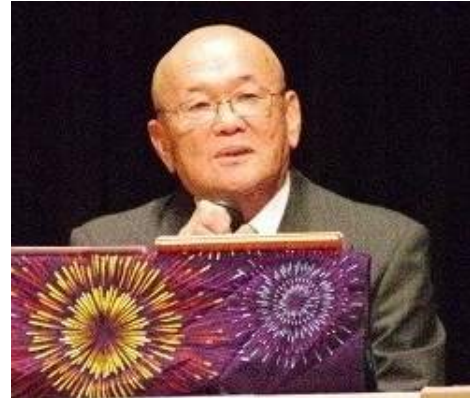
映画

魔女の宅急便(2014)

七人の秘書(2022)他多数

[ビデオメッセージ]

たてやま いさお
豎山 勲



ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長

【略歴】

- 昭和37年9月5日 国立らい療養所星塚敬愛園に強制入所。
- 昭和39年4月 国立療養所長島愛生園に転園（高校入学の為）
- 昭和42年 出身園である敬愛園に転入所し、その後、敬愛園自治会活動を続ける。
- 平成8年4月1日 1996年の「らい予防法」廃止に関する諸問題に対し、個人として活動を始める。
- 平成8年5月 MBCTV「どーんと鹿児島」星塚人間回復の声～らい予防法廃止が問いかけるもの等に出演。その後、TV(筑紫哲也)ニュース23を始め、TV・新聞・ラジオ・雑誌等に出演。
- 平成10年7月31日 熊本地裁に「らい予防法」違憲国賠訴訟を提起。原告13名(第一次)原告団を結成し西日本原告団事務局長を努める。
- 平成13年4月14日 全国原告団協議会設立。副会長。
- 平成13年5月11日 判決。原告が完全勝訴し、同年5月23日、政府控訴断念、熊本地裁判決が確定。
- 平成16年5月26日 国立療養所星塚敬愛園退所。社会復帰。

【社会活動】

ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長

ハンセン病問題対策協議会・全国統一交渉団

ハンセン病問題に関する検証会議の提言に基づく再発防止検討会委員

全国退所者連絡会(全退連)相談役

ハンセン病家族訴訟原告団 顧問

らい予防法違憲国家賠償請求訴訟西日本原告団事務局長。

鹿児島県ハンセン病療養所退所者の会代表

NPO 法人「共に歩む会」理事

前ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会副会長

元国立療養所星塚敬愛園自治会副会長等

その他、「再発防止検討会」の委員等、国設置の委員会の委員を複数務めている。

1998年より講演活動を始め、講演回数1000回以上。

現在、ハンセン病問題の全面解決へ向けて国との交渉の任にあたる。

【絵本】

「時の響きて」・・・絵本のモデル。福安かずこ原作、天台宗より出版。

天台宗人権啓発公開講座をはじめ、各種研修会で利用。

【歌】

「時の響きて」・・・歌のモデル。

北九州在住の人権バンド、願児我楽夢（がんじがらめ）が作詞作曲。

[ビデオメッセージ]

おく たけし
屋 猛司

全国ハンセン病療養所入所者協議会会長

国立療養所邑久光明園入所者自治会会長

【略歴】

昭和49年	大阪大学病院でハンセン病と診断され邑久光明園に入所
平成5年	自治会活動に携わり
平成18年～	邑久光明園自治会会長を勤め現在に至る
令和5年8月～	全国ハンセン病療養所入所者協議会会長を勤め現在に至る

[ビデオメッセージ]

ハンセン病家族訴訟原告代表 原告番号 21
番

[人権ライブラリーの御案内]



人権ライブラリーでは、およそ 15,000 冊の国内外の人権関連図書を始め、映像資料 (DVD、VHS)、紙芝居、展示用パネル、全国の地方公共団体が発行する啓発資料などを所蔵し、閲覧・貸出しを行っています。

これらの啓発資料は、郵送等による貸出しを行っており、遠方の方も御利用いただけます。また、無料の貸会議室 (多目的スペース) もございます。ぜひ、御利用ください。



人権ライブラリー

検索



<https://www.jinken-library.jp>

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954

Eメール library@jinken.or.jp

※ 公益財団法人人権教育啓発推進センター・併設



人権イメージキャラクター人KEN まもる君と人KEN あゆみちゃんは、漫画家やなせたかしさんのデザインにより誕生しました。2人とも、前髪が「人」の文字、胸に「KEN」のロゴで、「人権」を表しています。人権が尊重される社会の実現に向けて、全国各地の人権啓発活動で活躍しています。

人権を侵害されていると感じたら… 法務局・地方法務局、その支局に気軽に御相談ください

みんなの人権110番		0 5 7 0 - 0 0 3 - 1 1 0
女性の人権ホットライン		0 5 7 0 - 0 7 0 - 8 1 0
こどもの人権110番		0 1 2 0 - 0 0 7 - 1 1 0
外国語人権相談ダイヤル		0 5 7 0 - 0 9 0 - 9 1 1

令和5年度法務省委託

～ハンセン病問題を次世代に伝える～「親と子のシンポジウム」

公益財団法人人権教育啓発推進センター

「～ハンセン病問題を次世代に伝える～『親と子のシンポジウム』」事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

TEL 03-5777-1802 (代表) / FAX 03-5777-1803

ウェブサイト <http://www.jinken.or.jp>



 @Jinken_Center

YouTube 「人権チャンネル」 <https://www.youtube.com/jinkenchannel>



YouTube 「法務省チャンネル」 <https://www.youtube.com/MOJchannel>



人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp>



※ 人権教育啓発推進センター併設

法務省人権擁護局 <https://www.moj.go.jp/JINKEN/>



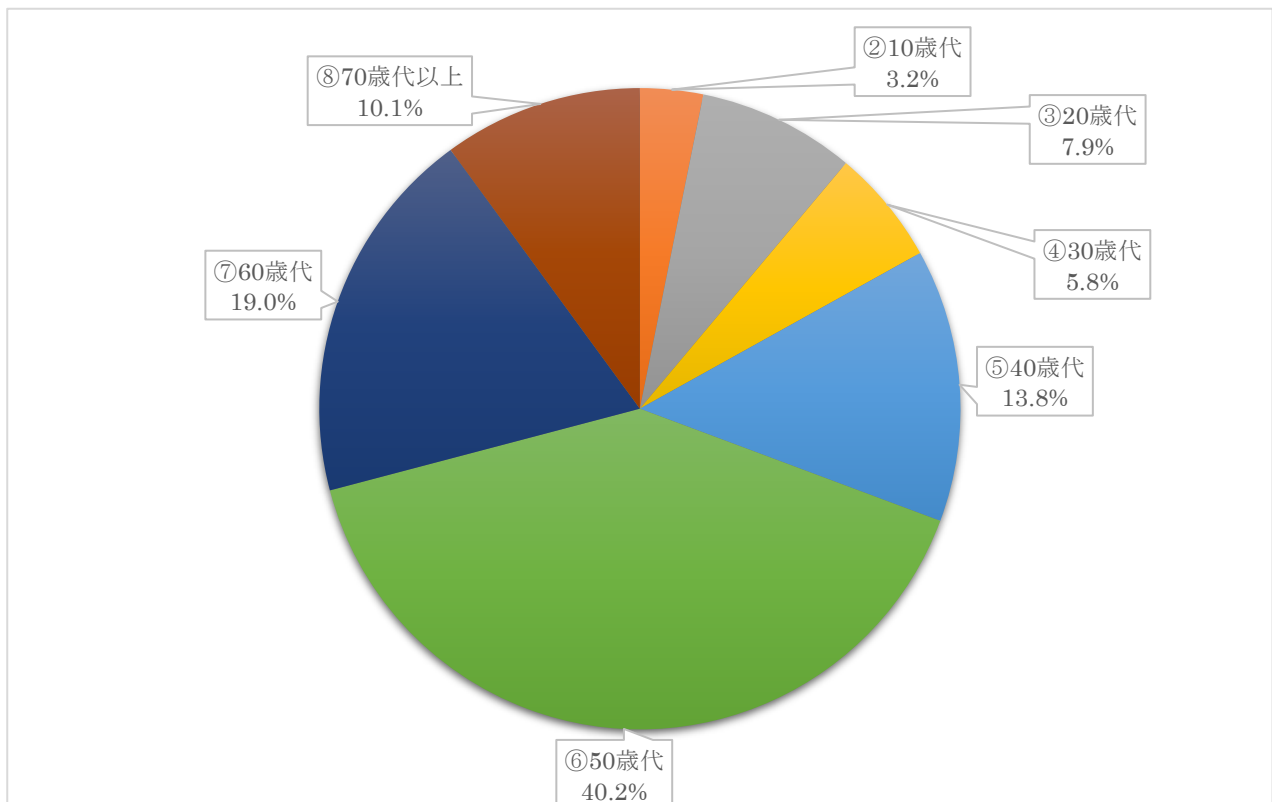
法務省人権擁護局で検索！

～ハンセン病問題を次世代に伝える～「親と子のシンポジウム」 参加者アンケート集計結果

(注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため合計は必ずしも 100 とは限らない。

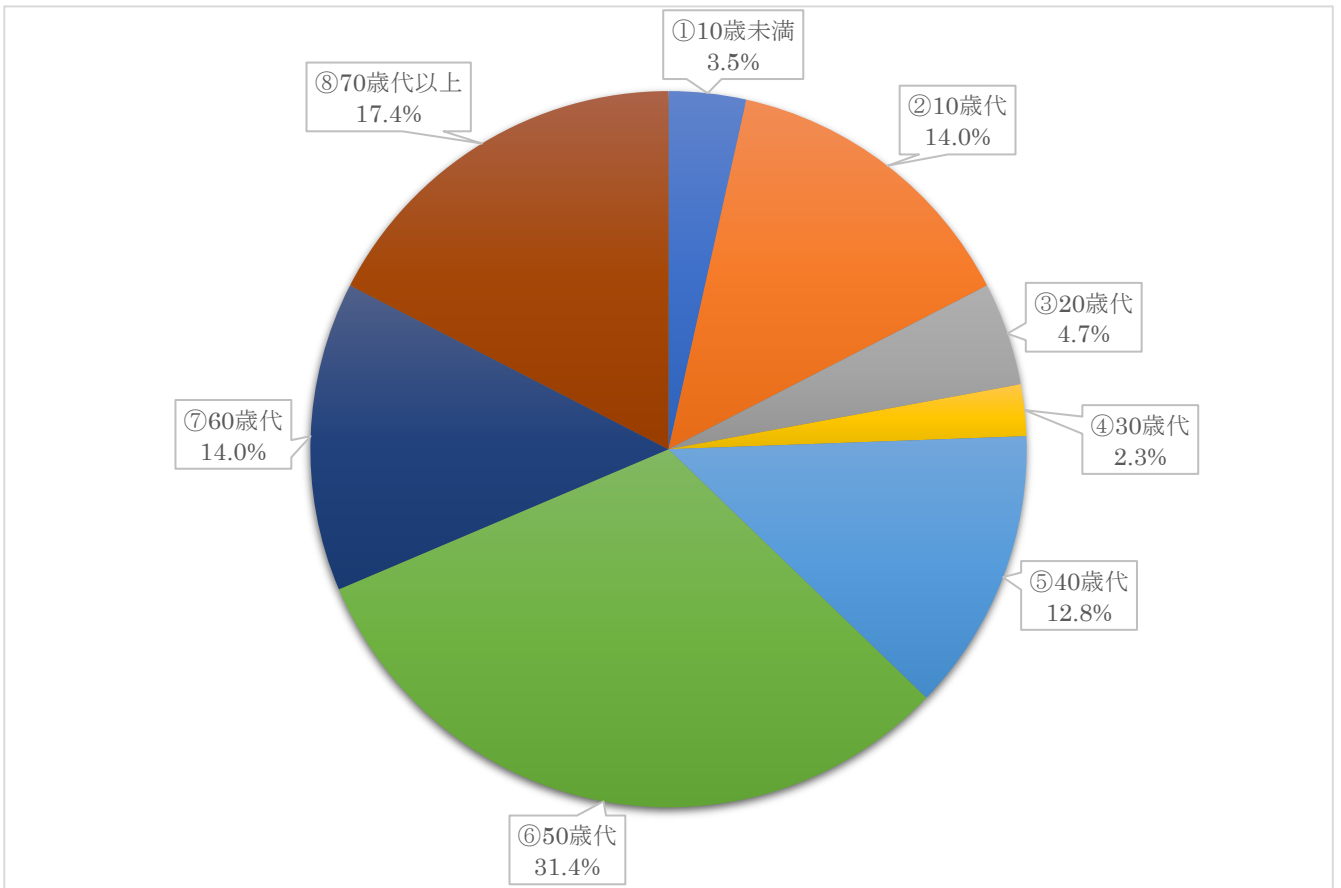
1-1.ご自身の年齢について、当てはまるものを選んでください。

1	10歳未満	0人
2	10歳代	6人
3	20歳代	15人
4	30歳代	11人
5	40歳代	26人
6	50歳代	76人
7	60歳代	36人
8	70歳代以上	19人
	無回答	0人
	計	189人



1-1-1.複数人で視聴された場合は年齢の欄にそれぞれの人数を選択してください
 (ご自身は、人数に含めないでください。)

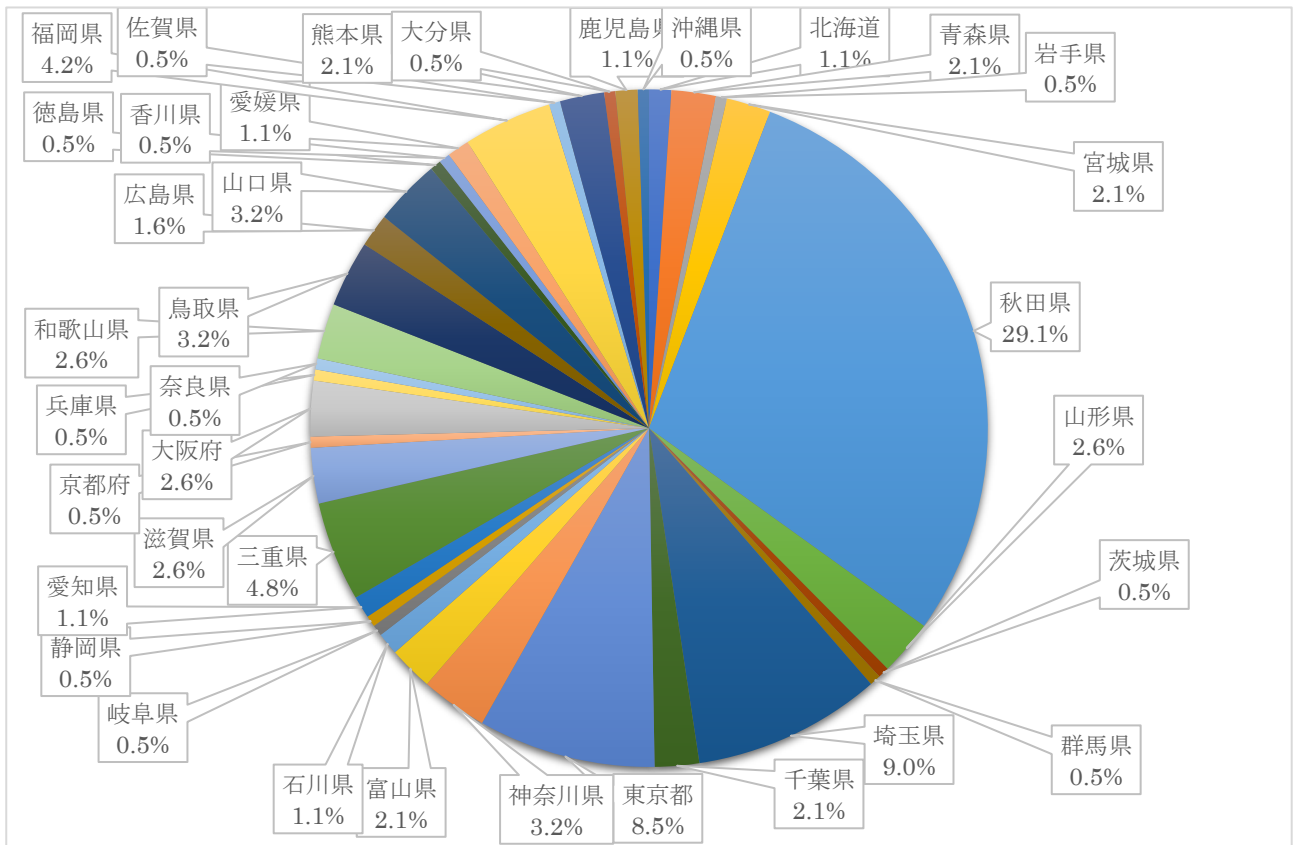
1	10歳未満	3人
2	10歳代	12人
3	20歳代	4人
4	30歳代	2人
5	40歳代	11人
6	50歳代	27人
7	60歳代	12人
8	70歳代以上	15人
	計	86人



1-2.ご自身の居住地について、当てはまるものを選んでください。

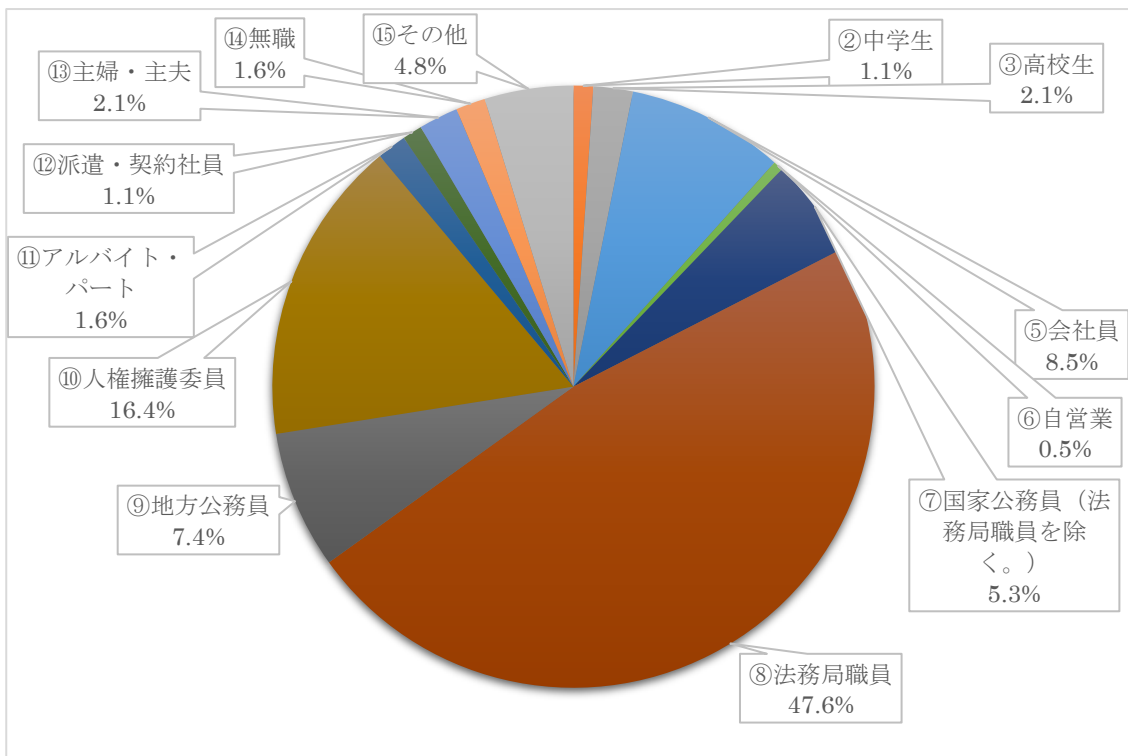
1	北海道	2人
2	青森県	4人
3	岩手県	1人
4	宮城県	4人
5	秋田県	55人
6	山形県	5人
7	福島県	0人
8	茨城県	1人
9	栃木県	0人
10	群馬県	1人
11	埼玉県	17人
12	千葉県	4人
13	東京都	16人
14	神奈川県	6人
15	新潟県	0人
16	富山県	4人
17	石川県	2人
18	福井県	0人
19	山梨県	0人
20	長野県	0人
21	岐阜県	1人
22	静岡県	1人
23	愛知県	2人
24	三重県	9人
25	滋賀県	5人
26	京都府	1人
27	大阪府	5人
28	兵庫県	1人
29	奈良県	1人
30	和歌山県	5人
31	鳥取県	6人
32	島根県	0人
33	岡山県	0人
34	広島県	3人
35	山口県	6人
36	徳島県	1人
37	香川県	1人

38	愛媛県	2人
39	高知県	0人
40	福岡県	8人
41	佐賀県	1人
42	長崎県	0人
43	熊本県	4人
44	大分県	1人
45	宮崎県	0人
46	鹿児島県	2人
47	沖縄県	1人
48	その他	0人
	無回答	0人
	計	189人



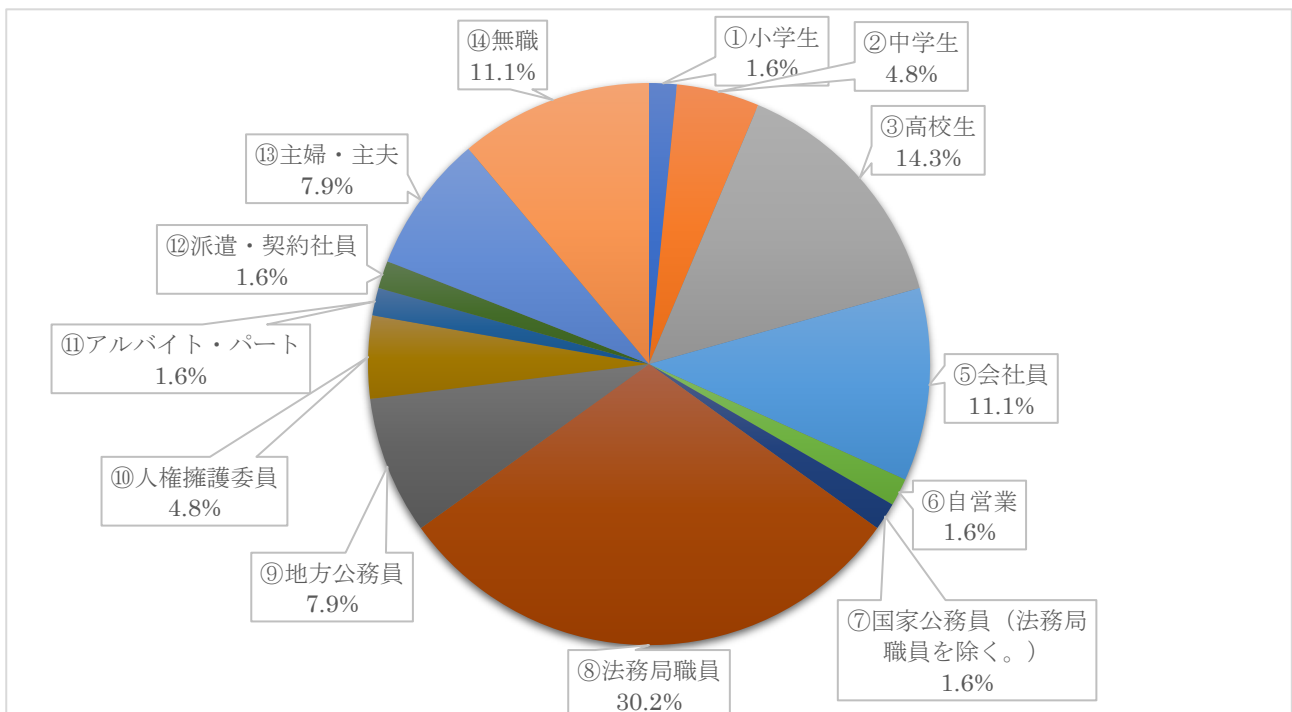
1-3.ご自身の職業等について、当てはまるものを選んでください。

1	① 小学生	0人
2	② 中学生	2人
3	③ 高校生	4人
4	④ 専門学校・大学生	0人
5	⑤ 会社員	16人
6	⑥ 自営業	1人
7	⑦ 国家公務員（法務局職員を除く。）	10人
8	⑧ 法務局職員	90人
9	⑨ 地方公務員	14人
10	⑩ 人権擁護委員	31人
11	⑪ アルバイト・パート	3人
12	⑫ 派遣・契約社員	2人
13	⑬ 主婦・主夫	4人
14	⑭ 無職	3人
15	⑮ その他	9人
	無回答	0人
	計	189人



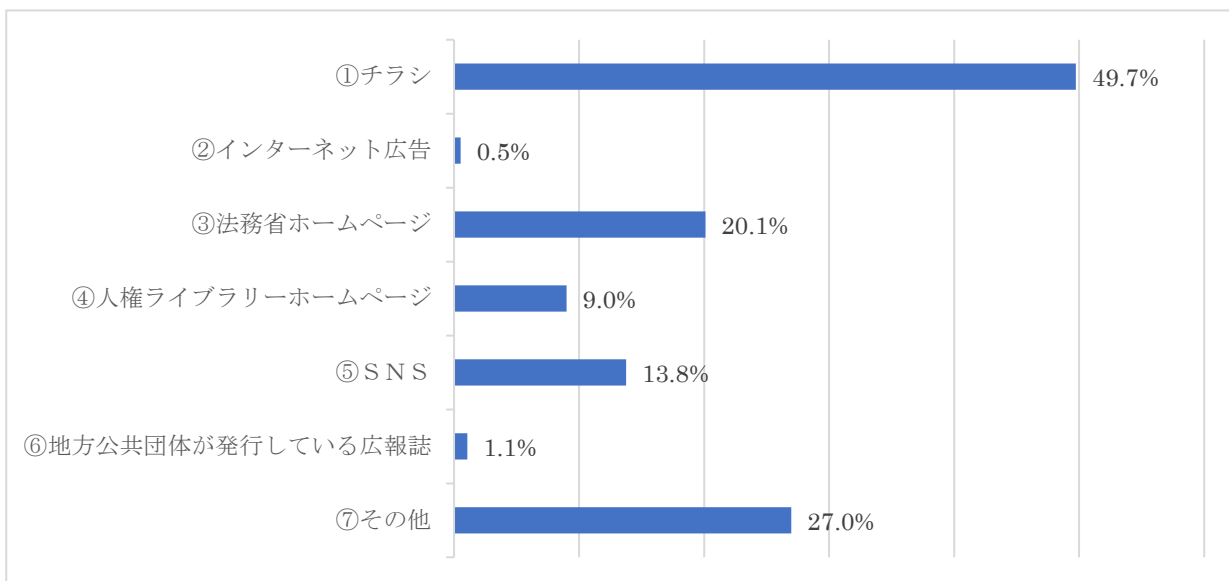
1-3-1. 複数人で視聴された場合は職業等の欄にそれぞれの人数をご入力ください（ご自身は、人数に含めないでください）。

1	① 小学生	1人
2	② 中学生	3人
3	③ 高校生	9人
4	④ 専門学校・大学生	0人
5	⑤ 会社員	7人
6	⑥ 自営業	1人
7	⑦ 国家公務員（法務局職員を除く。）	1人
8	⑧ 法務局職員	19人
9	⑨ 地方公務員	5人
10	⑩ 人権擁護委員	3人
11	⑪ アルバイト・パート	1人
12	⑫ 派遣・契約社員	1人
13	⑬ 主婦・主夫	5人
14	⑭ 無職	7人
15	⑮ その他	0人
	無回答	0人
	計	63人



2-1. 「～ハンセン病問題を次世代に伝える～「親と子のシンポジウム」を
どのようにして知りましたか。(複数回答可)

1	① チラシ	94 人
2	② インターネット広告	1 人
3	③ 法務省ホームページ	38 人
4	④ 人権ライブラリーホームページ	17 人
5	⑤ SNS	26 人
6	⑥ 地方公共団体が発行している広報誌	2 人
7	⑦ その他	51 人
	無回答	0 人
	計	229 人

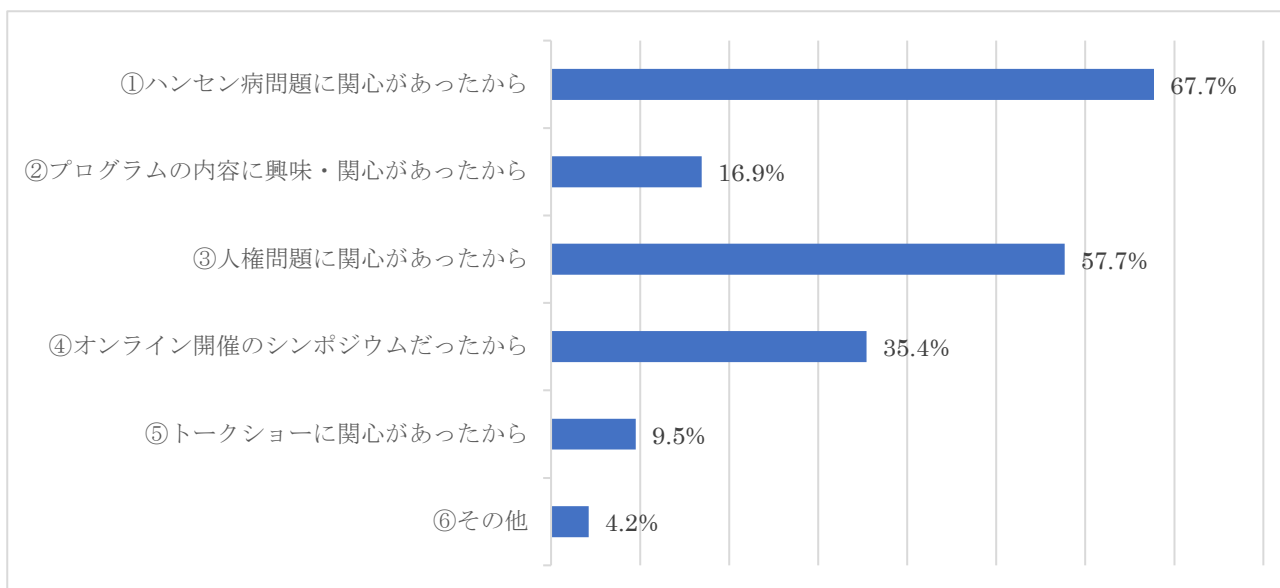


n = 189

※ n (=回答者数) に対する割合

3-1.このシンポジウムを視聴しようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

1	① ハンセン病問題に関心があったから	128 人
2	② プログラムの内容に興味・関心があったから	32 人
3	③ 人権問題に関心があったから	109 人
4	④ オンライン開催のシンポジウムだったから	67 人
5	⑤ トークショーに関心があったから	18 人
6	⑥ その他	8 人
	無回答	0 人
	計	362 人

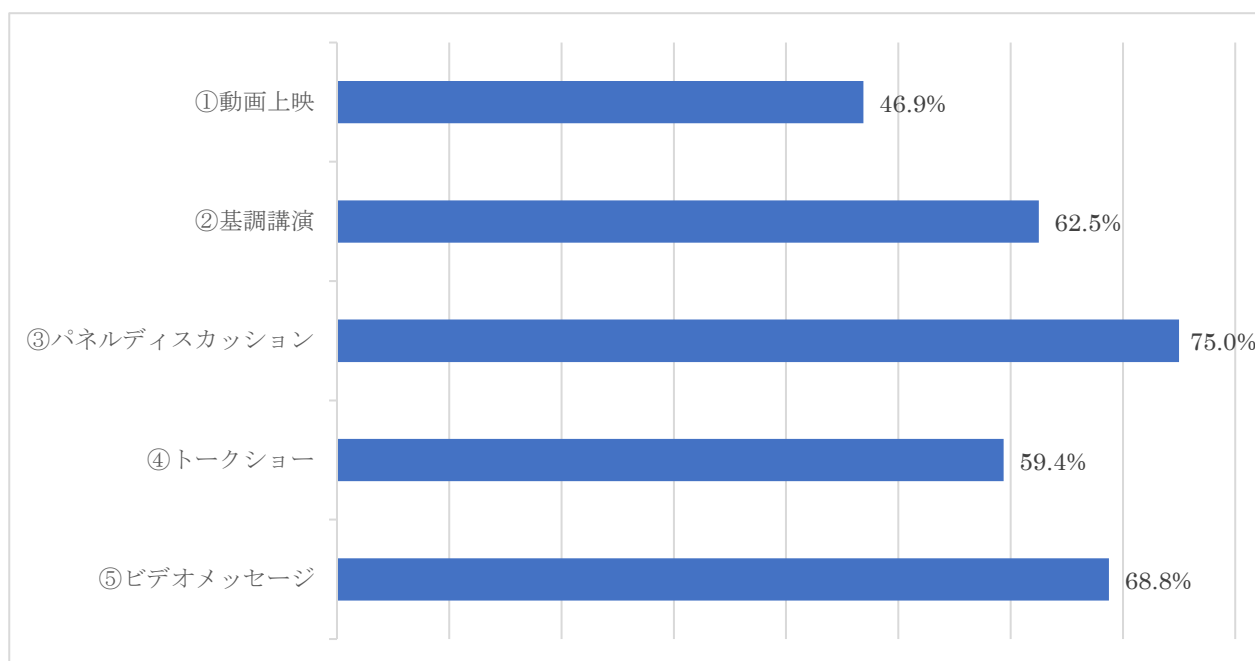


n = 189

※ n (=回答者数) に対する割合

3-1-2. 「3-1」で「②プログラムの内容に興味・関心があったから」とお答えいただいた方に伺います。具体的にどのプログラムに興味・関心があったかお聞かせください。(複数回答可)

1	① 動画上映	15 人
2	② 基調講演	20 人
3	③ パネルディスカッション	24 人
4	④ トークショー	19 人
5	⑤ ビデオメッセージ	22 人
	無回答	0 人
	計	100 人

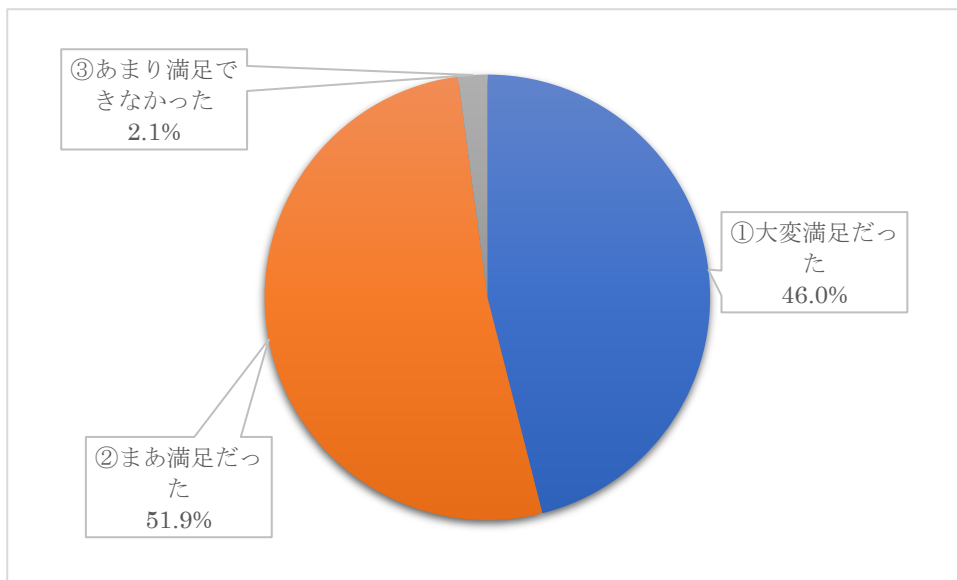


n = 32

※ n (=回答者数) に対する割合

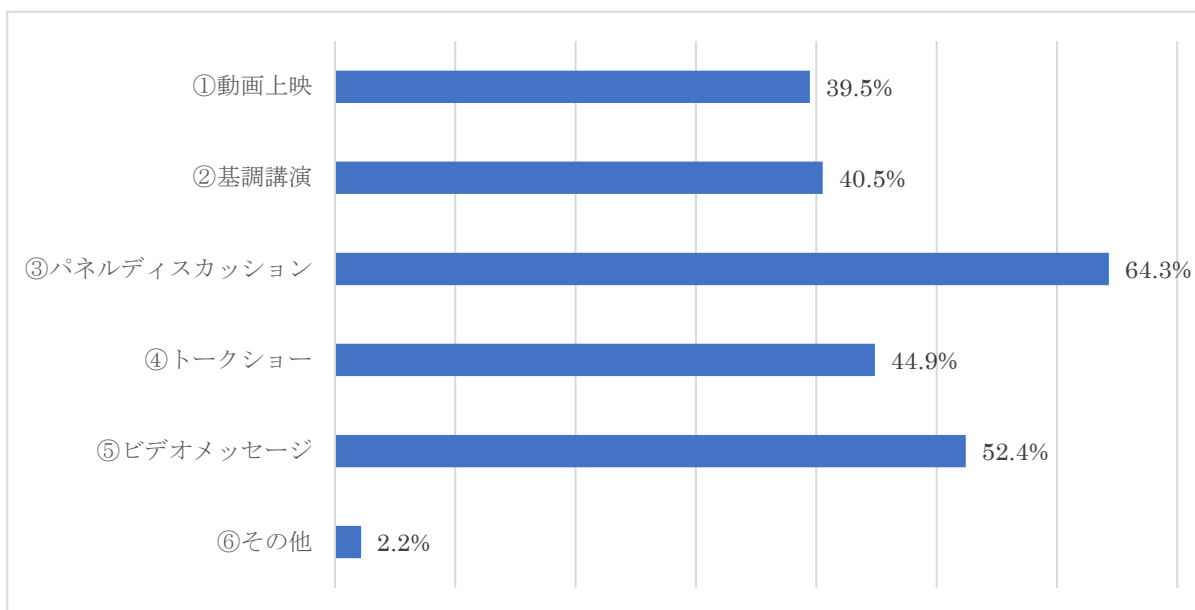
4-1. 今回のシンポジウムは全体として満足いくものでしたか。

1	① 大変満足だった	87人
2	② まあ満足だった	98人
3	③ あまり満足できなかった	4人
4	④ 満足できなかった	0人
	無回答	0人
	計	189人



4-1-1. 4-1で「①大変満足だった」又は「②まあ満足だった」とお答えいただいた方に伺います。具体的にどの点がよかったかお聞かせください。(複数回答可)

1	① 動画上映	73 人
2	② 基調講演	75 人
3	③ パネルディスカッション	119 人
4	④ トークショー	83 人
5	⑤ ビデオメッセージ	97 人
6	⑥ その他	4 人
	無回答	0 人
	計	451 人

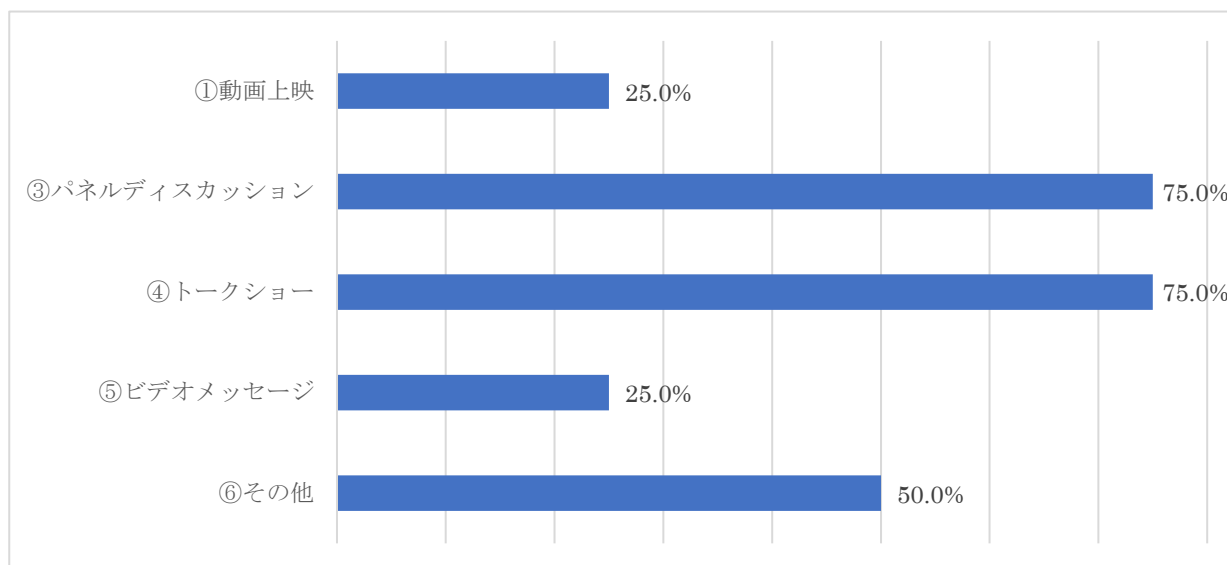


n = 185

※ n (=回答者数) に対する割合

4-2-1. 「4-1」で「③やや不満足だった」又は「④大変不満足だった」とお答えいただいた方に伺います。具体的にどの点がよくなかったかお聞かせください。(複数回答可)

1	① 動画上映	1人
2	② 基調講演	0人
3	③ パネルディスカッション	3人
4	④ トークショー	3人
5	⑤ ビデオメッセージ	1人
6	⑥ その他	2人
	無回答	0人
	計	10人

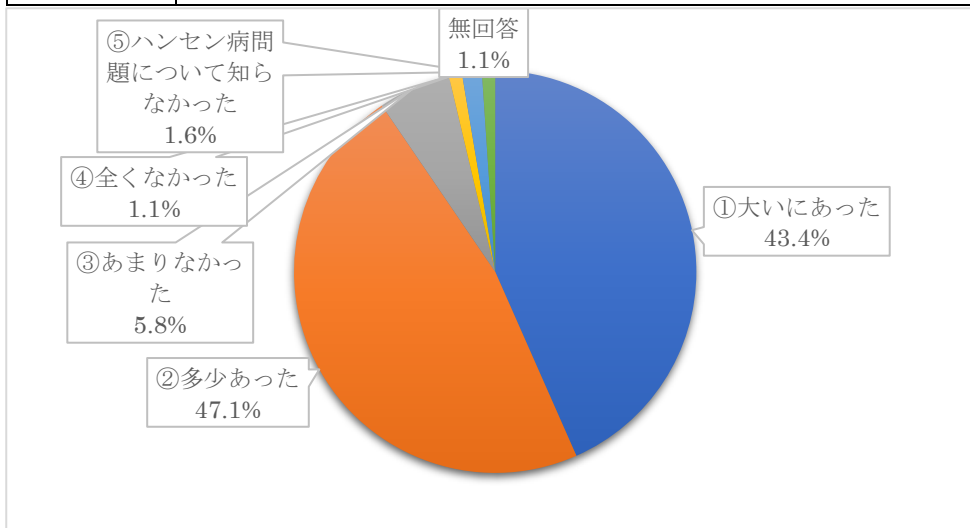


n=4

※ n (=回答者数) に対する割合

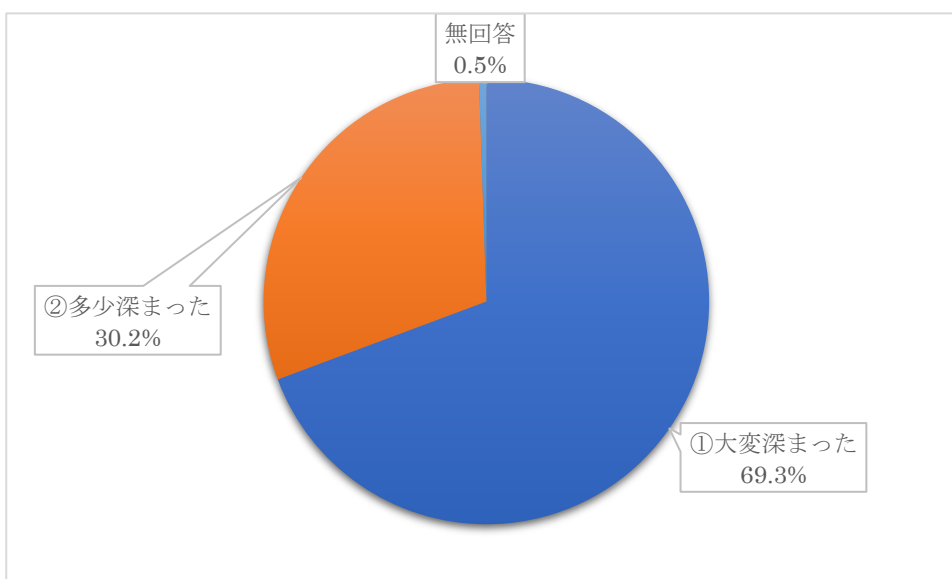
5-1. 今回のシンポジウム以前に、ハンセン病問題についてどのくらい関心がありましたか。

1	① 大いにあった	82人
2	② 多少あった	89人
3	③ あまりなかった	11人
4	④ 全くなかった	2人
5	⑤ ハンセン病問題について知らなかった	3人
	無回答	2人
	計	189人



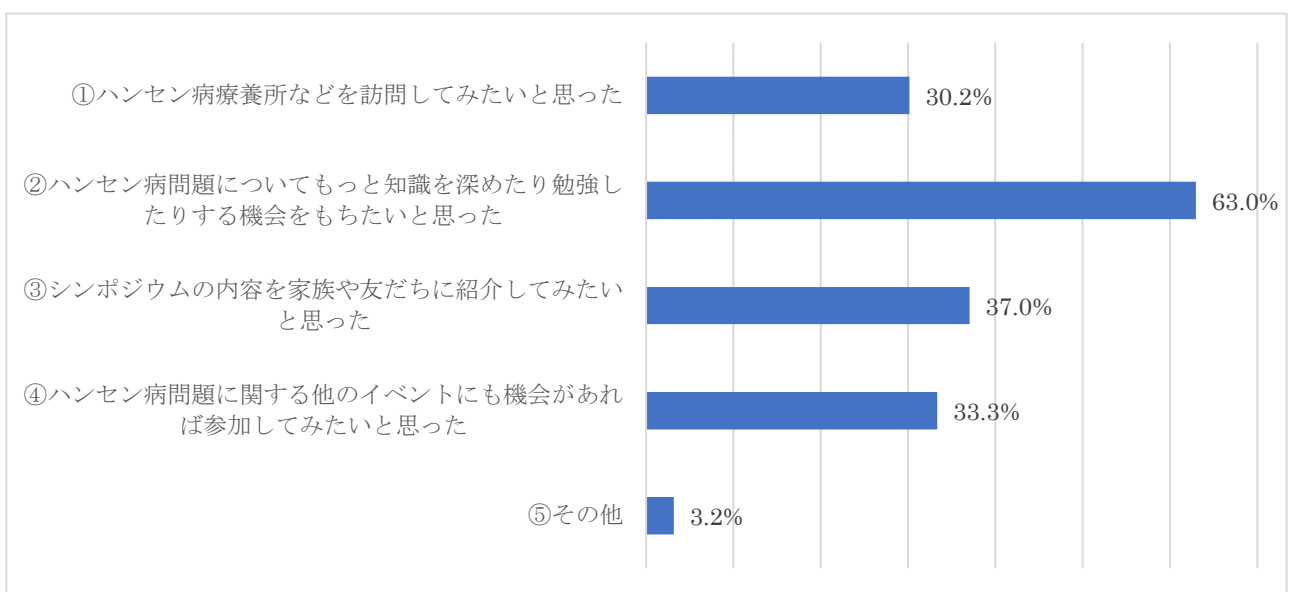
5-2. シンポジウムを終えて、ハンセン病問題についての理解が深まりましたか。

1	① 大変深まった	131人
2	② 多少深まった	57人
3	③ あまり深まらなかった	0人
4	④ 全く深まらなかった	0人
	無回答	1人
	計	189人



5-4. シンポジウムを視聴して、ハンセン病問題に関して考えに変化はありましたか。(複数回答可)

1	① ハンセン病療養所などを訪問してみたいと思った	57人
2	② ハンセン病問題についてもっと知識を深めたり勉強したりする機会をもちたいと思った	119人
3	③ シンポジウムの内容を家族や友だちに紹介してみたいと思った	70人
4	④ ハンセン病問題に関する他のイベントにも機会があれば参加してみたいと思った	63人
5	⑤ その他	6人
	無回答	0人
	計	315人

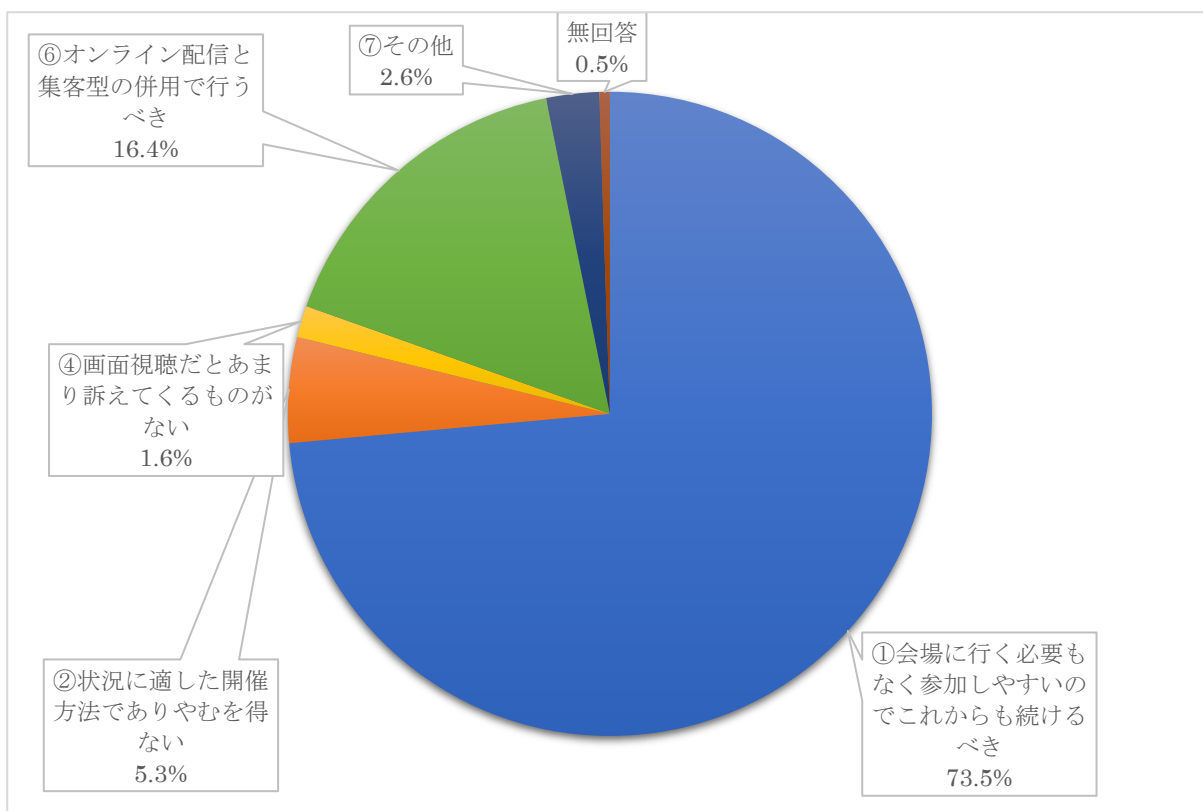


n = 189

※ n (=回答者数) に対する割合

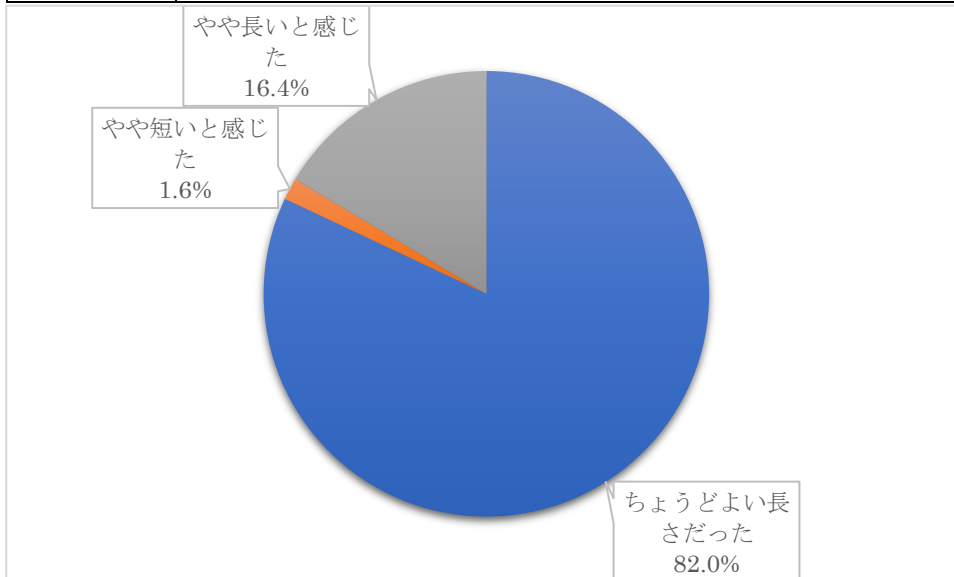
6-1. シンポジウムのオンライン開催について、どう思いますか。

1	① 会場に行く必要もなく参加しやすいのでこれからも続けるべき	139人
2	② 状況に適した開催方法でありやむを得ない	10人
3	③ 参加する方法がよく分からず大変だった	0人
4	④ 画面視聴だとあまり訴えてくるものがない	3人
5	⑤ オンライン配信ではなく集客型で行うべき	0人
6	⑥ オンライン配信と集客型の併用で行うべき	31人
7	⑦ その他	5人
	無回答	1人
	計	189人

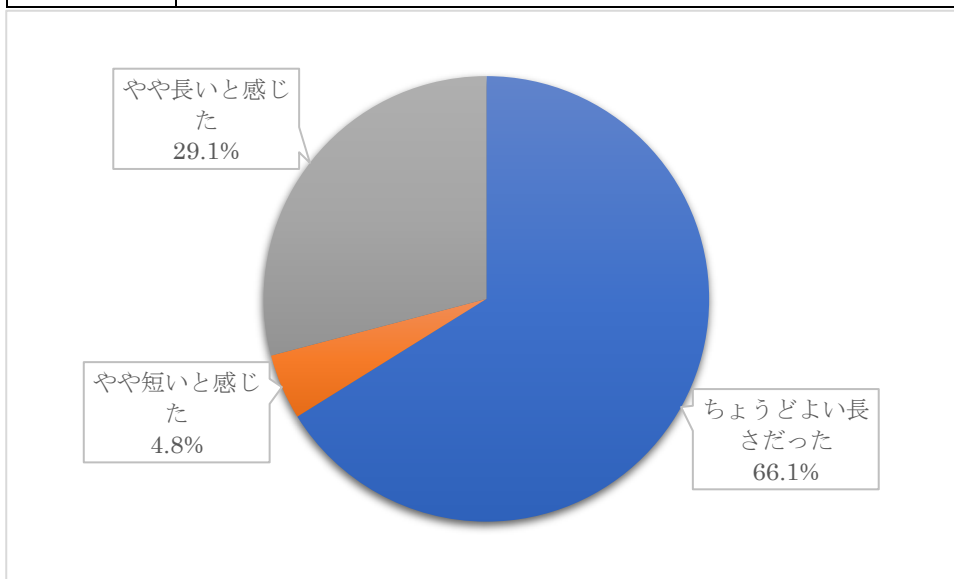


7.各プログラムの時間についてどう思ったか、最も当てはまるものを選択してください。

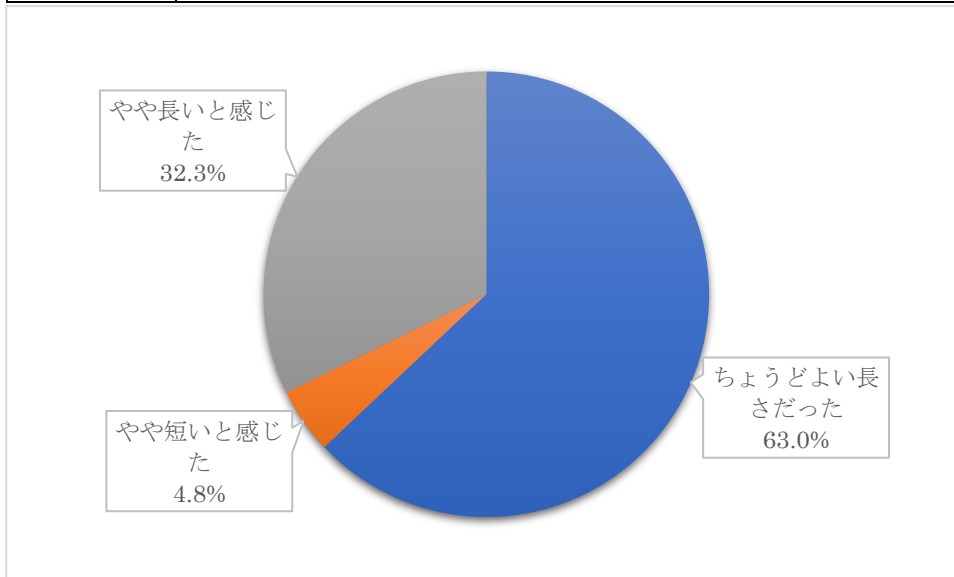
[基調講演]		
1	ちょうどよい長さだった	155人
2	やや短いと感じた	3人
3	やや長いと感じた	31人
	無回答	0人
	計	189人



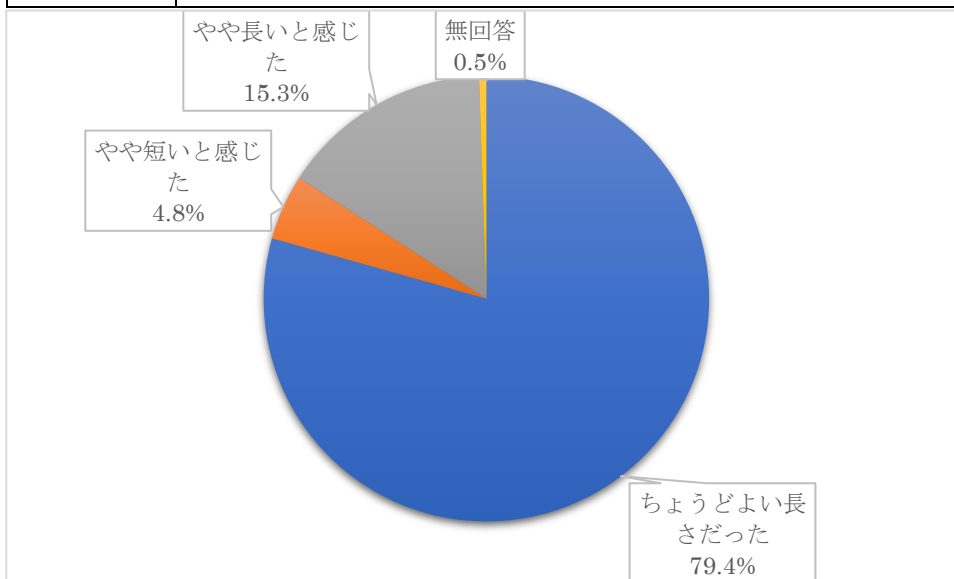
[パネルディスカッション]		
1	ちょうどよい長さだった	125人
2	やや短いと感じた	9人
3	やや長いと感じた	55人
	無回答	0人
	計	189人



[トークショー]		
1	ちょうどよい長さだった	119人
2	やや短いと感じた	9人
3	やや長いと感じた	61人
	無回答	0人
	計	189人

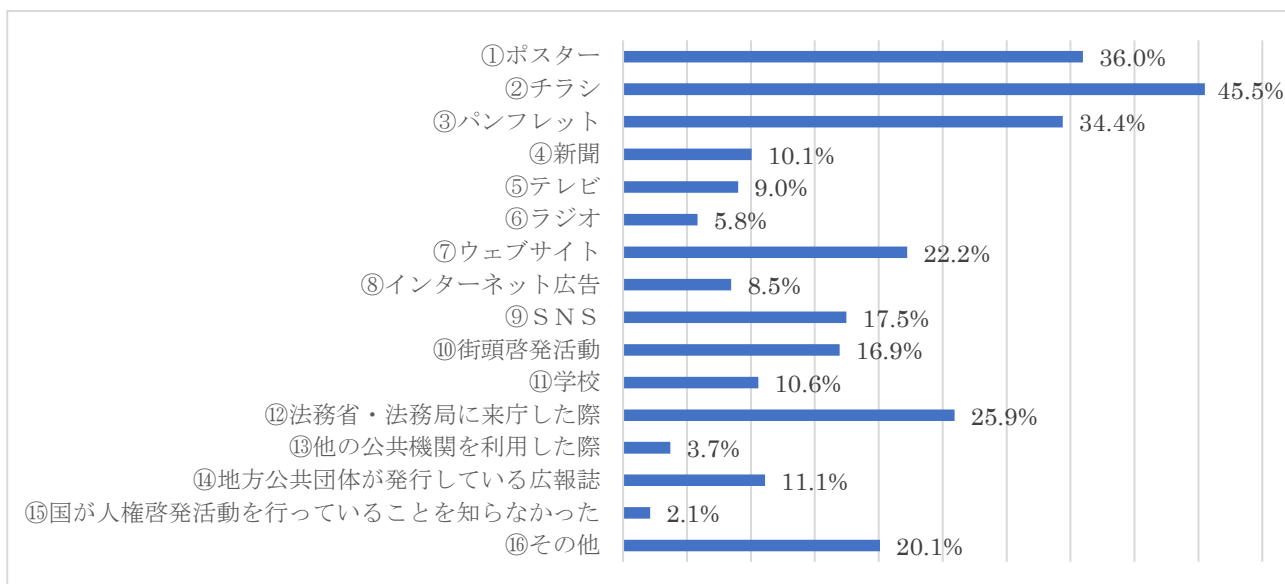


[ビデオメッセージ]		
1	ちょうどよい長さだった	150人
2	やや短いと感じた	9人
3	やや長いと感じた	29人
	無回答	1人
	計	189人



8-1. 本シンポジウムなど、国の人権擁護機関（法務省・法務局・人権擁護委員）は、広く人権啓発活動を行っています。国の人権擁護機関が人権啓発活動を行っていることをご存じの場合、どのようにして知りましたか。（複数回答可）

1	① ポスター	68人
2	② チラシ	86人
3	③ パンフレット	65人
4	④ 新聞	19人
5	⑤ テレビ	17人
6	⑥ ラジオ	11人
7	⑦ ウェブサイト	42人
8	⑧ インターネット広告	16人
9	⑨ SNS	33人
10	⑩ 街頭啓発活動	32人
11	⑪ 学校	20人
12	⑫ 法務省・法務局に来庁した際	49人
13	⑬ 他の公共機関を利用した際	7人
14	⑭ 地方公共団体が発行している広報誌	21人
15	⑮ 国が人権啓発活動を行っていることを知らなかった	4人
	⑯ その他	38人
	無回答	0人
	計	528人



n = 189

※ n (=回答者数) に対する割合

～ハンセン病問題を次世代に伝える～「親と子のシンポジウム」

偏見や差別をなくし 安心して暮らせる社会へ

ハンセン病問題のこともっと知って話し合おう



基調講演
「うそ」の生き方で60年余
国立療養所多磨全生園入所者自治会会長
山岡 吉夫さん

私は小学6年生の夏休みにハンセン病を発症し、国の強制的な隔離政策によって、国立療養所長島養生園(岡山県)に入所して治療を受けることになりました。家族や親類に迷惑がかかるからと、姓を山岡から山田に変えました。
つらかったのは病気への偏見で親子の絆が結ばなかったことです。友達もできず、口数も少なくなり、孤立していききました。これではいけないと思い、長島養生園から多磨全生園(東京都)に転園し、そこから都立の定時制高校に4年間通いました。卒業前には全生園を退所し、卒業後は都内で就職しました。30年以上にわたり会社勤めをしましたが、その間は病気のことを隠し、人とのつながりをもたず、「うそ」の生き方をしてきました。その後、後遺症の治療のため、2012年に全生園に再入所しました。
全生園には70歳から105歳まで99人が生活しています。高齢化問題もありますが、現在は、全生園を市民共有の森、ハンセン病問題を学ぶことができる「人権の森」にしようという構想に取り組んでいます。



トークショー
差別する側もされる側に
俳優
横溝 菜帆さん

ハンセン病という言葉は聞いたことがありましたが、詳しいことは知らなかったため、今回国立ハンセン病資料館を訪ね、ハンセン病の歴史や現状を学びました。患者・元患者やその家族の方々の苦しい思いをされた境遇に触れ、とても胸が苦しくなりました。
衝撃だったのは、患者さんが「断種、断胎」で子どもを持ってないようにされたことです。また、小さい子どもたちも療養所に入所していたと聞いて、家族や友達などと突然引き離されてしまったら、どれほど悲しくて



広告

ハンセン病とは?
ハンセン病とは「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあります。しかし、らい菌の感染力は弱く、発病することは極めてまれです。また、万が一発病しても、現在は早期発見と適切な治療により、後遺症が残ることもなく完治します。

パネルディスカッション 患者・元患者やその家族が安心して暮らすには?

コーディネーター
フリーアナウンサー 元ヤングケアラー
町 亞聖さん

パネリスト
第41回全国中学生人権作文コンテスト・
内閣総理大臣賞受賞者
松葉 悠乃さん

パネリスト
東京歯科大学美術研究科先端芸術表現
専攻修士課程在籍、写真家・アーティスト
木村 直さん

パネリスト
ハンセン病問題を共に学び共に闘う
全国市民の会会長
太田 明夫さん

パネリスト
ハンセン病問題や様々な差別の問題の
当事者としては、被害を受けた当事者
だけではなく市民一人ひとりなのです。
全てが自分の問題として考えなければ
なりません。一度、教室で先生にハン
セン病とはなんですか?と質問してみたく
さい。先生と一緒に考えることも大切です。

パネリスト
ハンセン病遺棄国家賠償請求訴訟全国原告団協議会 事務局長
野山 勲さん

パネリスト
全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、
国立療養所邑久光明園入所者自治会会長
屋 猛司さん

パネリスト
全国人権擁護委員連合会会長、
国立ハンセン病資料館館長
内田 博文さん

パネリスト
国立ハンセン病資料館学芸員
金 貴粉さん

パネリスト
全国のハンセン病療養所の入所者
812人の平均年齢は87.9歳(5月現在)
です。入所者がいなくなっても、ハン
セン病問題は残ります。偏見・差別の問
題は大多数である社会の側が変わらな
ければいけない課題です。身近な人が病
気のために偏見・差別を受けたらと想像し、一歩を
踏み出してみてください。

ビデオメッセージ

人間として生きられる社会を
11歳の時に母がハンセン病で亡くなり、中学2年生でハンセン病療養所に強制隔離されました。家族とは離れ離れになり、父や兄、姉の葬儀にも出られませんでした。親と子の絆を断る切なようなことがあってはなりません。当たり前な生活も国の政策の中で奪われてしまった人生があるということも知っていただきたいです。

いつでも遊びに来てください
邑久光明園は東日本大震災の翌年から被災者家族を受け入れて、交流しています。ハンセン病療養所では唯一、敷地内に特別養護老人ホームもあり、その入居者を年に2回招待しています。親子で、近所の人たちと会い合せて、近くのハンセン病療養所に足を運んでみてください。いつでも遊びに来てください。

私たちのことを忘れないで
父が24歳でハンセン病を発症し、私は小学校で同級生からハンセン病患者の子としていじめられました。運動会の昼食も母と校舎の陰に隠れるようにして食べました。家族訴訟原告団(560人以上)のほとんどが今なお、偏見・差別に悩まながら自分の経験を語って暮らしています。どうか私たちのことを忘れないでください。

このシンポジウムの模様は、動画共有サイト
YouTubeの「人権チャンネル」でご覧いただけます。
<https://youtu.be/P276Vt03VrI?feature=shared>

知っていますか?
「子どもの人権110番」

いじめや虐待などの困りごと、
ひとりで悩まないで相談してください。

インターネット人権相談
インターネットでも人権相談を受け付けています。
パソコン・携帯電話・スマートフォン共通
<https://www.jinken.go.jp>

インターネット人権相談 **検索**

子どもの人権110番 ☎ 0120-007-110
みんなの人権110番 ☎ 0570-003-110
女性の人権ホットライン ☎ 0570-070-810

子どもの人権 SOSモニター

外国人のための 人権相談

法務省人権擁護局ウェブサイト <https://www.moj.go.jp/JINKEN>
YouTube 法務省チャンネル <https://www.youtube.com/MOJchannel>
YouTube 人権チャンネル <https://www.youtube.com/jinkenchannel>
人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/HumanRightsBureau/MOJ/>
X(Twitter) https://mobile.twitter.com/MOJ_JINKEN

SNS(LINE) 人権相談
アカウント名: SNS人権相談
ID: @snsjinkensoudan

友だち追加はこちら!

人権啓発動画
ハンセン病問題を知る
～元患者と家族の思い～

動画はこちらから
https://youtu.be/gPH5b_CDwto

隔離政策によって偏見や差別に苦しみがら生きてきた。ハンセン病患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発動画です。

～ハンセン病問題を次世代に伝える～「親と子のシンポジウム」 偏見や差別をなくし 安心して暮らせる社会へ

広告

ハンセン病問題のことをもっと知って話し合おう

ハンセン病問題を次世代に伝える「親と子のシンポジウム」が11月11日にオンラインで開催されました。ハンセン病は治療法が確立しており、治る病気です。しかし、ハンセン病患者やその家族への偏見・差別は現代社会に根深く残っています。偏見・差別を解消するには、ハンセン病による偏見・差別を受けた当事者の声を聞き、ハンセン病問題に関する正しい知識を身に付け、患者・元患者やその家族の方々が置かれている状況を理解することが大切です。ハンセン病問題の解決に向けて、世代を越えて話し合ってみましょう。

ハンセン病とは？

ハンセン病とは「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあります。しかし、らい菌の感染力は弱く、発病することは極めてまれです。また、万が一発病しても、現在は早期発見と適切な治療により、後遺症が残ることなく完治します。



基調講演
「うそ」の生き方で60年余
国立療養所多磨全生園入所者自治会会長
山岡 吉夫さん

私は小学6年生の夏休みにハンセン病を発症し、国の強制的な隔離政策によって、国立療養所長島愛生園(岡山県)に入所して治療を受けることになりました。家族や親類に迷惑がかかるからと、姓を山岡から山田に変えました。つらかったのは病気への偏見で親子の絆が結ばなかったことです。友達もできず、口数も少なくなり、孤立してしまいました。これではいけないと思い、長島愛生園から多磨全生園(東京都)に転園し、そこから都立の定時制高校に4年間通いました。卒業前には全生園を退所し、卒業後は都内で就職しました。30年以上にわたり会社勤めをしましたが、その間は病気のことを隠し、人とのつながりをもたず、「うそ」の生き方をしてきました。その後、後遺症の治療のため、2012年に全生園に再入所しました。全生園には70歳から105歳まで99人が生活しています。高齢化問題もありますが、現在は、全生園を市民共有の森、ハンセン病問題を学ぶことができる「人権の森」にしようという構想に取り組んでいます。



トークショー
差別する側もされる側に
俳優
横溝 菜帆さん

ハンセン病という言葉は聞いたことがありましたが、詳しいことは知らなかったため、今回国立ハンセン病資料館を訪ね、ハンセン病の歴史や現状を学びました。患者・元患者やその家族の方々の苦しい思いをされた境遇に触れ、とても胸が苦しくなりました。衝撃だったのは、患者さんが「断種、墮胎」で子どもを持たないようにされたことです。また、小さい子どもたちも療養所に入所していたと聞いて、家族や友達などと一緒に引き離されてしまったら、どれほど悲しく

つらくて怖いだろう、療養所で友達ではできなかったのか、どのような話をしたのか、想像は広がりました。どうしたら偏見・差別がなくなるのでしょうか。小・中学校で「ハンセン病問題について知ろう」をテーマにしたイベントがあったらいいと思います。ハンセン病問題に関する情報に触れることができる場を増やしたらいいと思います。差別される側もされる側になるかもしれません。一人ひとりが正しい知識を身につけ、自分事として考えることが大切だと感じます。

パネルディスカッション 患者・元患者やその家族が安心して暮らすには？

コーディネーター フリーアナウンサー 元ヤングケアラー 町 聖聖さん
パネリスト 『声』を届けるのが使命
私は主に医療と介護の問題で生きづらさを抱えている人々の声に耳を傾けてきました。ハンセン病患者を隔離することなどを定めた「らい予防法」が27年も前に廃止されたにもかかわらず、いまだに偏見と差別はなくありません。そんな現状に苦しむ人の声を全面に届けるのが私の使命だと考えています。

パネリスト 第41回全国中学生人権作文コンテスト・内閣総理大臣賞受賞者 松葉 悠乃さん
パネリスト 高校の部活動でヒューマンライツに所属しています。岡山県にある国立療養所長島愛生園で園内ガイドを経験し、入所者の方々と交流して学び、入所者の方々だけでなく家族も差別によってつらい経験をしたと知りました。偏見や差別をなくすためには正しく知って、正しく行動することが大切です。

パネリスト 東京藝術大学美術研究所先端芸術表現専攻修士課程在籍、写真家・アーティスト 木村 直さん
パネリスト 徹底的に考え続ける
このまのころ両眼に連れられて通った沖繩県那覇市は、おばあちの交流からハンセン病問題を知り、写真や映像などを用いて表現活動をしています。差別と向き合うには徹底的に考え続けることが必要だと思います。中学生のみならずには、ぜひハンセン病療養所に出かけみてほしいです。

パネリスト ハンセン病問題を共に学び共に闘う 全国市民の会会長 太田 明夫さん
パネリスト 自分事として考える
ハンセン病問題や様々な差別の問題の当事者とは、被害を受けた当事者だけではなく市民一人ひとりなのです。全ての人が自分の問題として考えなければなりません。一度、教室で先生に「ハンセン病とはなんですか」と質問してみてください。先生と一緒に考えることも大切です。

コメンテーター 全国人権擁護委員連合会会長、国立ハンセン病資料館館長 内田 博文さん
コメンテーター 人権の進化に対応する
人権は絶えず進化し続けます。進化に対応せずにいると未解決の問題を留めることとなります。それは私たちが再び差別者になることを意味します。ハンセン病問題を解決していくためには絶えず次世代にバトンタッチし、その時代の進化に即応していく必要があります。それが被害者の救済につながります。

コメンテーター 国立ハンセン病資料館学芸員 金 貴粉さん
コメンテーター 身近な人が差別されたら
全国のハンセン病療養所の入所者812人の平均年齢は87.9歳(5月現在)です。入所者がいなくなっても、ハンセン病問題は残ります。偏見・差別の問題は大多数である社会の側が変わらなければいけない課題です。身近な人が病気のために偏見・差別を受けたらと想像して、一歩を踏み出してみてください。

ビデオメッセージ

ハンセン病遺棄国家賠償請求訴訟全国原告団協議会 事務局長 野山 勲さん
人間として生きられる社会を
11歳の時に母がハンセン病で亡くなり、中学2年生でハンセン病療養所に強制隔離されました。家族とは離れ離れになり、父や兄、姉の葬儀にも出席しませんでした。親と子の絆を断ち切るようなことがあってはなりません。当たり前の生活も国の政策の中で奪われてしまった人生があるということを知っていただきたいです。

全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所旭久光明園入所者自治会会長 屋 猛司さん
いつでも遊びに来てください
旭久光明園は東日本大震災の翌年から被災者家族を受け入れて、交流しています。ハンセン病療養所では唯一、敷地内に特別養護老人ホームもあり、その入居者を年に2回見舞いしています。親子で、近所の人たちと話し合せて、近くのハンセン病療養所に足を運んでみてください。いつでも遊びに来てください。

ハンセン病家族訴訟原告代表 原告番号21番さん
私たちのことを忘れないで
父が24歳でハンセン病を発症し、私は小学校で同級生からハンセン病患者の子といじめられました。運動会の昼食も母と校舎の間に隠れるようにして食べました。家族訴訟の原告団(560人以上)のほとんどが今なお、偏見・差別に悩まながら自分の経験を語って暮らしています。どうか私たちのことを忘れないでください。

このシンポジウムの模様は、動画共有サイト YouTubeの「[人権チャンネル]」でご覧いただけます。
<https://youtu.be/P276Vt03VrI?feature=shared>

「知っていますか？」
「子どもの人権110番」
いじめや虐待などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

子どもの人権110番 ☎ 0120-007-110
みんなの人権110番 ☎ 0570-003-110
女性の人権ホットライン ☎ 0570-070-810

「インターネット人権相談」
インターネットでも人権相談を受け付けています。
<https://www.jinken.go.jp>

人権啓発動画
ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～
https://youtu.be/gPH5b_CDWto

「インターネット人権相談」
●法務省人権擁護局ウェブサイト <https://www.moj.go.jp/JINKEN>
●YouTube 法務省チャンネル <https://www.youtube.com/MOJ/channel>
●YouTube 人権チャンネル <https://www.youtube.com/jinkenchannel>
●人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/HumanRightsBureau.MOJ/>
X(Twitter) https://mobile.twitter.com/MOJ_JINKEN

SNS(LINE) 人権相談 ID: @snsjinkensoudan
アカウント名: SNS人権相談
まだ追加はこれから!